

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

大阪電気通信大学の起源は、1941年に創設された東亜電気通信工学校まで遡ることができる。そして直接的には、1958年に創設された大阪電気通信短期大学が前身となる。その当時の電子工学科の開設は、東京大学・大阪大学と同時であり、私立大学としてはわが国最初であった。以来、その50年以上の歴史において、常に社会と産業の将来を見据えて先端技術を究め、また新たな文化・産業を創造することにより、社会進歩に貢献することを目指してきた。本学の基本理念は、以下の3点であり、ホームページなどにより公開されている。

- （1）大阪電気通信大学人としての人間像を目指し、学生・教職員すべてが切磋琢磨して共に学ぶ場である
- （2）手と頭と心を同時に動かす実践型教育を重視する
- （3）不断に学びを続け、自己の成長に努力を惜しまない姿勢を貫く

さらに、この基本理念に基づいて本学が目指す人物像として

- （1）基礎的人間力を備え、実際の課題を解決できる現実的対応力を磨き、自律的に自己を成長させる人
- （2）個性を発揮し、自らの役割を、責任を持って果たし、社会に貢献する人
- （3）自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営み、人間的完成を目指す人を掲げている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

本学部学科改組前の医療健康科学部では、開設3学科ごとに、それぞれの学位分野に応じた教育を提供してきた。近年、医療健康分野については、特定の専門知識を修得した人材だけでなく、情報技術をはじめ周辺の専門も含めた幅広い知識を身につけた人材が望まれている。改組を通じてこの分野におけるDX人材ニーズに対応し、ICTを専攻共通の教育として重視して授業科目を配置することとした。このため、この度設置する健康情報学部は、「情報教育」を学部共通の教育と定め、従来の学科の枠を取り除き1学科3専攻の構成とする。

健康情報学科医療工学専攻では、工学に関連した充実した科目群が用意されており、手厚い工学教育を実現する。具体的には、電気・電子工学、機械工学、医用機器学、健康福祉工学、医療工学などの区分に属する豊富な科目群が用意され、授与する学位（学士（工学））が示すように、工業に関する科目が数多く配置されている。さらに、当該専攻では、数学の理解に不可欠な代数学、幾何学、解析学、確率・統計に関する基礎的な概念や原理・法則を教授できるよう科目配置しており、コンピュータの区分においては、本学科設置の特色であるICT教育を重視した科目配置を活かし、コンピュータの活用について習得できるように工夫している。加えて医療現場における数学の応用についても学べるよう科目を配置しており、数学を活用して問題を解決するための思考力・判断力・表現力等を養い、日常生活や自然現象における数学の有用性を理解できるよう教育課程を用意している。

健康情報学科スポーツ科学専攻では、保健体育に関連した充実した科目群が用意されており、手厚い専門教育を実現する。具体的には、スポーツ社会学、運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ医学、スポーツ教育学、スポーツコーチング、ヘルスプロモーション、生涯スポーツ、eスポーツ、スポーツ方法実習などの区分に属する豊富な科目群が用意され、授与する学位（学士（スポーツ科学））が示すように、保健体育に関する科目が数多く配置されている。

健康情報学科理学療法専攻では、教員養成を目的とはしていないが、理学療法士の養成に必要な充実した科目群が用意されており、手厚い専門教育を提供する。具体的には、基礎医学、臨床医学、理学療法学、理学療法治療学、臨床実習などの区分に属する豊富な科目群が用意され、授与する学位（学士（理学療法学））が示すように、理学療法学に関する科目が数多く配置されている。

これらのことにより、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献できる健康情報学の専門的人材を養成する。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学における教員養成の理念は、(1)に記した基本理念および目指す人物像に立脚している。すなわち、実践的な教育により先端的科学技術を究め、新しい文化・産業を創出できる人材育成をもって社会に貢献しようとするものである。これらは、科学技術の基礎的な教育と、人間的完成を目指した総合的人間教育を融合させることによって実現できる。

具体的には、広範にわたる先端的科学技術を極めるにあたり、数学、物理、化学はもちろんのこと、工学、情報科学、健康情報、医療工学、スポーツ科学など、その根幹をなす基礎学力から応用力を十分に身につけられるよう工夫されたカリキュラムを準備している。そこでは、実験・実習や演習、少人数ゼミナールを多く配置し、柔軟かつ論理的な実践力・思考力・表現力をもつ人材の育成を目指している。これにより、実践による体験をもって科学の楽しさを知り、かつそれを教授できる知識と技能を有する教員の養成が可能となっている。

また、こうした科学技術の基礎的知識をベースとして、それを先端的な分野に応用する技量だけでなく、豊かな生活を営むための人間としての基本的な資質をみがくことにも注力している。これにより、社会の中心に立ってその要請にこたえるべく不断の努力を続けることができる人間性豊かな教員の輩出が可能になると考える。そして、その確かな人間性により、社会から広く信頼される教員となりうることを期待される。

工学部(4学科)、医療健康科学部(3学科)(※2025年度より健康情報学部1学科3専攻に改組)、情報通信工学部(2学科)、総合情報学部(3学科)、建築・デザイン学部(1学科2専攻)を擁する本学は、工学的基礎教育を中心とした教科教育はもとより、スポーツ科学を含めて、その知識と技術を社会の進歩と人間の尊厳の確立のために役立てる総合的な人間教育を行うことを目指している。そしてこうした教育課程に立脚して、数学・理科・工業・技術・情報および保健体育の教員免許に関する教職課程を置いている。「教科に関する専門的事項」については、学科や専攻に配置された専門科目において当該教員免許が必要とされる要件を満たす豊富な科目群を準備し、それに精通した教員が教育を行っている。その一方で、「教育の基礎的理解に関する科目等」については、担当する教員の多くが「共通教育機構人間科学教育研究センター」に所属し、「人間の探求」「文化の理解」「社会の認識と人権」などの人間性を育むための共通科目を準備している。さらに、教員養成に深い造詣を持つ教員が中心となって、専門教育を行う各学科や専攻との橋渡しをおこない、教職学生一人一人まで目が行き届いた手厚い教員養成教育を行っている。

上記の教員養成の理念・構想のもとで、本学では以下のような教員を養成しようとしている。

- (1) つねに学び、実験し、たしかな専門性を身につけようとする科学者としての姿勢を身につけた教員
- (2) 子どもの内面をとらえ、深い信頼と愛情をもって向き合うことのできる人間性豊かな教員
- (3) 子どもや親の願い、社会の要請に耳を傾け、つねに自分を高め、発達させていこうとする自己教育力をもった教員

これらすべてを満足する教員の養成はたやすいことではないが、本学の全教職員が一丸となって多くに優秀な人材を世に送り出すべく、不断の努力を続けている。

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

本学科の教員養成の理念は、教員養成課程を設置する2つの専攻で異なる。

医療工学専攻では、改組前の医療科学科と同様に、生体医工学やバイオメカニクスの数学的素養と力学的基礎、コンピュータを用いたプログラミング技術、ものづくりや医用機器を通じて得たメカトロニクス技術などの幅広い知識を教授できるだけでなく、これらの教職課程科目の修得を通して、医療従事者としての人間性・科学性、社会性及び倫理観に関する総合力を身につけた教員を養成することを目的としている。

スポーツ科学専攻では、改組前の健康スポーツ科学科と同様に、ICTの学びをベースに、スポーツ科学に加えて健康科学や医学などに関わる幅広い知識、各種スポーツ種目における態度と技能を教授できるだけでなく、これらの教職課程科目の修得を通して、アスリートとして求められる人間性、科学性、社会性及び倫理観、生涯スポーツの重要性を伝えることができる総合力を身につけた教員を養成することを目的としている。

そのため、本学科の教職課程は、対象となる高校生や中学生の立場を考慮し、その一人ひとりの内面を捉え、深い信頼関

係を構築できるコミュニケーション能力を持った人間性豊かな教員の養成を目指すものである。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

本学部学科改組前の医療健康科学部では、設置している3学科のうち2学科で教員養成に力を注いできた。医療科学科においては、高等学校教諭一種免許状（工業）、中学校教諭一種免許状（数学）及び高等学校教諭一種免許状（数学）、健康スポーツ科学科においては、中学校教諭一種免許状（保健体育）及び高等学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程を設置している。この度の改組に伴い、従来の学科の枠を取り除き1学科3専攻の構成とするが、各専攻の専門をベースとして授与する学位に応じた履修モデルを履修規程に示し、従来と変わらない教員養成を目指す所存である。具体的には、医療科学科における高等学校教諭一種免許状（工業）、中学校教諭一種免許状（数学）及び高等学校教諭一種免許状（数学）の教職課程を医療工学専攻で引き継ぎ、健康スポーツ科学科における中学校教諭一種免許状（保健体育）及び高等学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程をスポーツ科学専攻で引き継ぐものとする。具体的には以下のとおりである。

中学校教諭一種免許（数学）

本学科に医療工学専攻入学者を対象として中学校教諭一種免許（数学）の教育課程を置く。医療工学専攻としての卒業要件のほかに、医療工学専攻が指定する履修規程（学部規則に定義）と教職課程の履修規程に則り学修を進めていく。数学に関連した科目群は、改組前の医療科学科の教育課程を引き継ぎ、充実した課程を用意し、手厚い数学教育を実現する。さらに、数学の教員希望者に対しては、数学系科目の履修を中心に科目を履修するよう、履修ガイダンスにおいて履修指導を徹底することとしている。

中学校学習指導要領の数学においては、「数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。」ことが目標とされている。このことを背景に、数学の理解に不可欠な代数学、幾何学、解析学、確率・統計に関する基礎的な概念や原理・法則を教授できるよう、適切に科目配置しており、コンピュータの区分においては、本学科設置の特色であるICT教育を重視した科目配置を活かし、中学校教育におけるコンピュータ活用について習得できるようにしている。加えて、医療現場における数学の応用についても学ぶことで、数学を活用して問題を解決するための思考力・判断力・表現力等の創造性態度の育成、日常生活や自然現象における数学の有用性を理解する教育できる教員を養成する。

高等学校教諭一種免許（数学）

本学科に医療工学専攻入学者を対象として高等学校教諭一種免許（数学）の教育課程を置く。医療工学専攻としての卒業要件のほかに、医療工学専攻が指定する履修規程（学部規則に定義）と教職課程の履修規程に則り学修を進めていく。数学に関連した科目群は、改組前の医療科学科の教育課程を引き継ぎ、充実した課程を用意し、手厚い数学教育を実現する。さらに、数学の教員希望者に対しては、数学系科目の履修を中心に科目を履修するよう、履修ガイダンスにおいて履修指導を徹底することとしている。

高等学校学習指導要領の数学においては、「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数理的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。」ことが目標とされている。このことを背景に、数学の理解に不可欠な代数学、幾何学、解析学、確率・統計に関する基礎的な概念や原理・法則を教授できるよう、適切に科目配置しており、コンピュータの区分においては、本学科設置の特色であるICT教育を重視した科目配置を活かし、高等学校教育におけるコンピュータ活用について習得できるようにしている。加えて医療現場における数学の応用についても学ぶことで、数学を活用して問題を解決するための思考力・判断力・表現力等の創造性態度の育成、日常生活や自然現象における数学の有用性を理解する教育できる教員を養成する。

中学校教諭一種免許（保健体育）

本学科にスポーツ科学専攻入学者を対象として中学校教諭一種免許（保健体育）の教育課程を置く。スポーツ科学専攻としての卒業要件のほかに、スポーツ科学専攻が指定する履修規程（学部規則に定義）と教職課程の履修規程に則り学修を進めていく。保健体育に関連した科目群は、改組前の健康スポーツ科学科の教育課程を引き継ぎつつ発展させた充実した課程を用意し、手厚い専門教育を実現する。さらに、授与する学位がスポーツ科学であることからわかるようにスポーツに関する科目が数多く配置されているうえ、保健体育の教員希望者に対しては、スポーツや健康に関連した科目からの履修を中心に科目を履修するよう、履修ガイダンスにおいて履修指導を徹底することとしている。

中学校学習指導要領の保健体育に基づき、心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることのできる教員を養成する。先述した大学・学科の設置理念や本学科の教員養成の理念、それらに基づく教育課程を履修することによって、健康スポーツ科学の知識と各種スポーツ種目における態度と技能を教授し、スポーツが有する価値を伝えるとともに、生徒一人ひとりと深い信頼関係を構築できる人間性豊かな教員を養成する。

高等学校教諭一種免許（保健体育）

本学科にスポーツ科学専攻入学者を対象として高等学校教諭一種免許（保健体育）の教育課程を置く。スポーツ科学専攻としての卒業要件のほかに、スポーツ科学専攻が指定する履修規程（学部規則に定義）と教職課程の履修規程に則り学修を進めていく。

保健体育に関連した科目群は、改組前の健康スポーツ科学科の教育課程を引き継ぎ、充実した課程が用意されており、手厚い専門教育を実現する。さらに、授与する学位がスポーツ科学であることからわかるようにスポーツに関する科目が数多く配置されているうえ、保健体育の教員希望者に対しては、スポーツや健康に関連した科目からの履修を中心に科目を履修するよう、履修ガイダンスにおいて履修指導を徹底することとしている。

高等学校学習指導要領の保健体育に基づき、心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることのできる教員を養成する。

高等学校教諭一種免許（工業）

本学科に医療工学専攻入学者を対象として高等学校教諭一種免許（工業）の教職課程を置く。医療工学専攻としての卒業要件のほかに、医療工学専攻が指定する履修規程（学部規則に定義）と教職課程の履修規程に則り学修を進めていく。

工学に関連した科目群は、改組前の医療科学科の教育課程を引き継ぎ、充実した課程が用意されており、手厚い工学教育を実現する。さらに、授与する学位が工学であることからわかるように工業に関する科目が数多く配置されているうえ、工業の教員希望者に対しては、工業系科目の履修を中心に科目を履修するよう、履修ガイダンスにおいて履修指導を徹底することとしている。

高等学校学習指導要領の工業に基づき、工業の見方・考え方を働かせ、「ものづくり」を通じ、実践的・体験的な学習活動を行うことにより、工業の各分野について体系的・系統的な理解を深めるとともに、課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する能力を育成することの必要性が強調されている。このような要請を背景に、工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を高度な専門的知識に基づいて説明し、理解を促すとともに、「ものづくり」の課題を具体的に設定、実施できる教員を養成する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程委員会
目的：	<p>教職課程の適正な運営を図るために以下について審議する。</p> <p>(1) 教職課程に係わる授業科目</p> <p>(2) 教職課程に係わる授業科目の授業計画に関する事項</p> <p>(3) 教育実習の実施に関する事項</p> <p>(4) 介護等体験指導の実施に関する事項</p> <p>(5) 教職課程の自己点検・評価に関する事項</p> <p>(6) その他教職課程の運営に関する事項</p>
責任者：	教職課程委員長（教職課程委員の中から委員会において選出する。）
構成員（役職・人数）：	教職課程の教職に関する科目を担当する全ての教員、各学科・組織から選出された教員により構成され、令和5年度は23名である。これら委員より委員長、副委員長各1名を選出する。
運営方法：	<p>おおよそ3ヶ月に1度の頻度で開催している。ただし、非常勤講師等の人事に関わる事項や授業時間割編成に関する事項を審議する必要がある際は、その都度開催する。主な審議内容は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の教員免許取得状況や教員採用状況等の報告を受けて、当年度の取り組みを検討する。 ・当年度の教育実習及び介護等体験指導の状況の報告を受けて、当年度の視察等の取り組みを検討する。 ・編入学生の単位認定の可否。 ・当年度の授業実施状況の報告を受けて次年度時間割編成の検討をする。 ・教職の科目の教員の人事に関する事。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

別添参照

II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

教育実習および介護等体験指導の実施においては、常に府県や市区町村の教育委員会と連携・調整のもとに、その円滑な実施のために協力と連携を深めてきた。特に教職課程の学生の力量を高めるためには、生徒を集めた科学技術の公開体験学習などを教員とともに企画したり参加したりすることが大変重要な実践的体験になる。このような企画においては地元の寝屋川市や四條畷市及び市教育委員会の後援と協力をお願いする。これまでにも大阪電気通信大学としては、「テクノフェア」あるいはコンピュータとロボットを利用した体験学習「やさしい科学と工学最前線」などの取り組みにおいて、市教育委員会との連携・協力の実績をもっている。

また、寝屋川市教育委員会、四條畷市教育委員会、大阪市教育委員会と、初等中等教育におけるプログラミング教育推進について、本学と各教育委員会が連携して活動する協定を締結してい

様式第7号イ

る。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①
取組名称： 大阪電気通信大学高等学校学習支援
連携先の調整方法： 本学学務部学務課が窓口となり、本学学生の申込を受け付ける。日程等の詳細については、本学学務部学務課と大阪電気通信大学高等学校が協議し、決定する。
具体的な内容： 本学学生が、大阪電気通信大学高等学校において試験前に主に数学の学習支援を実施している。この学習支援によって、テスト勉強の習慣づけだけでなく、高校生の基礎学力の底上げを狙っている。
②
取組名称： 四條畷市立四條畷中学校スクールボランティア
連携先の調整方法： 四條畷市立四條畷中学校から本学担当者(教員)へ授業補助の依頼がある。募集は、本学学務部学務課が窓口となり、希望する学生を募る。希望する学生は本学学務部学務課がとりまとめ、本学担当者(教員)から四條畷市立四條畷中学校へ連絡する。
具体的な内容： 四條畷市立四條畷中学校において技術の授業補助を行う。中学生による木工作業についてのこぎりでの切断作業、のこやすりや、サンドペーパーで、仕上がり線まで整える作業の様子を見回りながら見守りとアドバイスを行う。
③
取組名称： 寝屋川市立中央小学校チャレンジクラブへの協力
連携先の調整方法： 小学校より本学学務部学務課とで連絡をとり、日程および講座内容を決定する。
具体的な内容： 「チャレンジクラブ」とは、寝屋川市立中央小学校の4～6年生の児童らが、学修意欲の向上や技術の習得を目的にスポーツや工作などのクラブ活動を体験するイベントで、今年で19回目を迎える。本学は地域ボランティア活動の一環として協力し、毎年さまざまな講座を実施している。 令和5年度は寝屋川キャンパスでソフトボール、タッチフットボール、卓球、バレーボール、管弦楽演奏、吹奏楽演奏、プラモデル制作、IT体験、プラ板制作、ミニジオラマ制作の10講座を、中央小学校でハンドボール、バスケットボール、映画製作、バドミントンの4講座を担当し、本学学生(学部生・大学院生)が講師を務めた。

Ⅲ. 教職指導の状況

<p>一種免許取得では、学部2年次より教職課程生として登録するようにしているため入学時と1年次の12月に教職課程のガイダンスを行っている。入学時においては、ほとんどの学生が教職を目指すかどうか決めていない。そのような学生が多いので、教職を目指すかどうか迷っている学生に対して、1年次配当科目のうち教職に係わる科目を紹介し、それらの科目を修得するよう説明している。そうしておけば、入学時以降に教職を目指す場合であっても教職に係わる科目を翌年度以降に履修する必要がないので、途中から教職を目指す場合であっても不利にならない。</p> <p>また、介護等体験指導及び教育実習のように学外への実習に出向くような場合は、手続きについてのガイダンスを行うだけでなく、実習先におけるマナー等についてもガイダンスを行っている</p>
--

様式第7号イ

と同時に、将来教員になるものとしての自覚と熱意をもって体験や実習を行うよう指導している。書類提出等手続きをすすめる際にも、学務課によるガイダンスにて実習先での心掛け等について指導するようにしている。また、介護等体験指導の実習先や、教育実習先へ、実習期間中に本学教員が訪問することとしている。実習先での様子を見学し、学生本人や指導していただいている先生方との連携をとっている。

以上のように、大学として各教職生が教員としての教養と基礎的指導力が向上するよう心掛け、一種免許取得のため指導を行っている。

このような指導により、免許教科に関して学部で学んだ基礎的な事項からより高度で先端的な知識や応用力を身につけ、それらを教育の現場で役立てることができるよう指導を行っている。

これにより、より実践的な教育・研究、「もの作り」を大切にし、自身で創意工夫をして新しいものを作り上げていくことを重視したものとなっている。

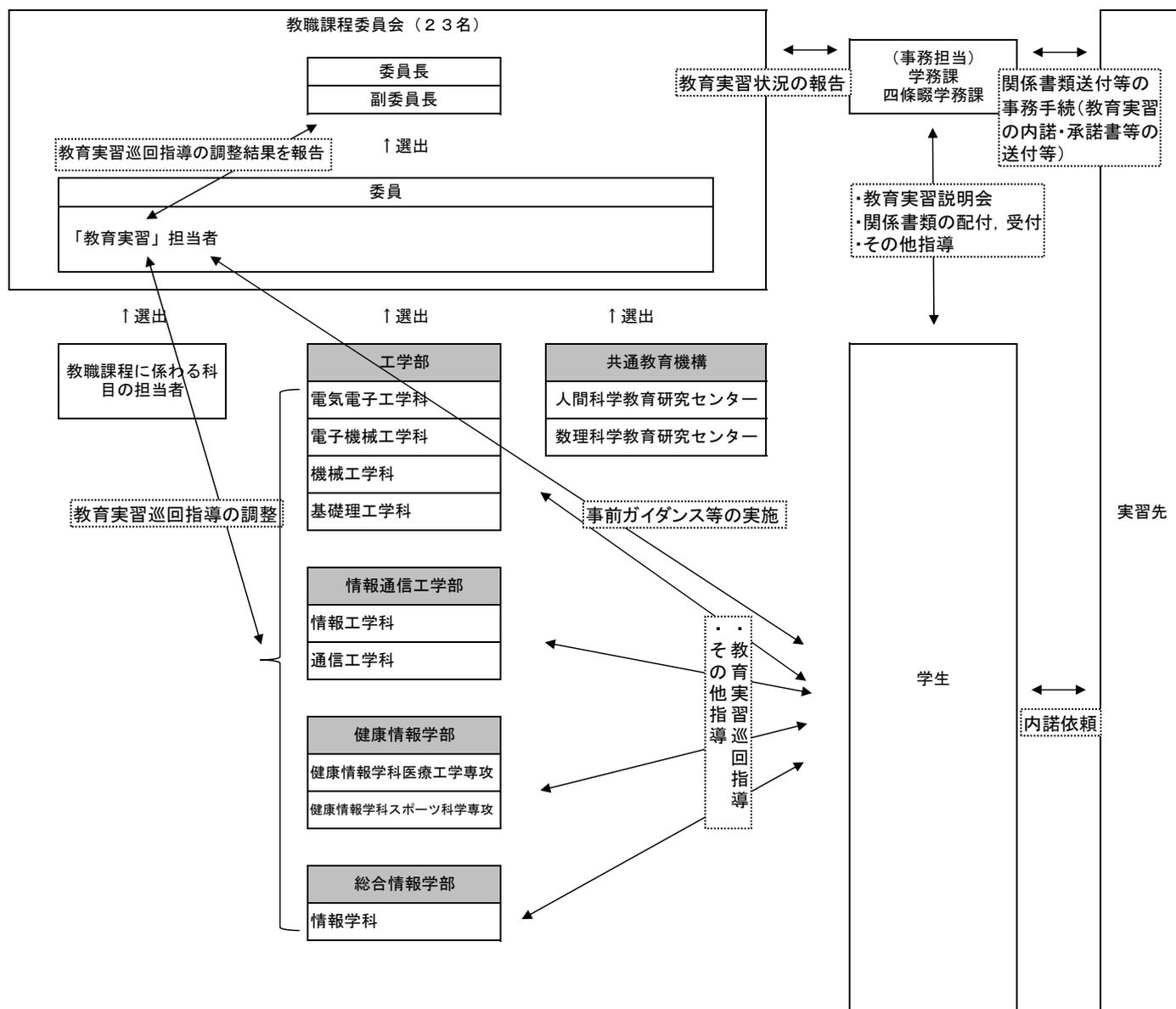
また、教職課程担当教員においては、「教職課程支援室」において授業時間以外の時間で、学校ボランティア等の学校現場における指導力向上に関するサポートや、教員採用試験受験に関する相談にも応じたりしている。求人のある中学校・高等学校に対しては、学生としての本務である授業出席や研究活動に支障が無いよう確認することはもちろんのこと、当該学生の志望の度合いや教育の現場に立つことに対する自覚・熱意等を研究指導教員、教職担当教員や職員が確認し推薦している。

大学としては、各教職生に対して、高度で先端的な教養・教科に関する内容について指導すると同時に、基礎的指導力の向上を支援することで、それらが相互により影響を及ぼし実践的な指導力の向上へと至るよう指導・支援を行っている。

様式7号イ 【別添】

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(2)(1)で記載した個々の組織の関係図



様式第7号ウ

<健康情報学部健康情報学科> (認定課程: 中一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指している、不断の努力を続けることができる人間性豊かな教員としての基盤を構築する。</p> <p>②数学科教員として必要となる数学及び情報の基礎的な科目を理解することで数学の分野を学ぶための基礎及び中学校教育におけるコンピュータ活用について修得する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指す教員像の理解を進め、教員の役割や職務内容、必要な資質について理解する。4年間の教職学修における目標を設定し、目標の実現に向けて意欲的に学修を進めるようになる。</p> <p>②学科の数学及び情報の基礎的な科目を理解することで数学の分野を学ぶための基礎を修得する。</p> <p>③日本国憲法や情報機器の操作等の教員として必要な基礎的知識と技能を修得する。</p>
2年次	前期	<p>中学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①教育の基本的な理念とこれまでの成り立ち、教育に関する制度、服務規程、関係法規等について理解する。</p> <p>②様々な状況にある生徒の身体的・心理的特性を理解し、学習の基礎理論と動機づけ、教育評価と測定の方法等の知見について理解を深め、数学の教科を通じた学校教育現場の具体的な課題への対応について関心を高める。</p> <p>③道徳教育の意義と役割について、歴史的背景と社会的動向を考慮し、道徳性を育むための理論と方法を理解する。</p> <p>④教育方法の基礎理論と技術について学ぶとともに、現代の教育実践及び情報機器の活用について理解する。</p> <p>⑤数学の教科における目標や学習内容、指導法などについて学修し、教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き中学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①特別活動の意義について学習し、実際の教育現場での実践を基に、特別活動の果たす役割を理解する。</p> <p>②数学の各分野の基礎から専門的な知識まで修得し、教育活動のための能力を発揮できるようにする。さらに、中学校教育におけるコンピュータ活用の応用について修得する。</p> <p>③数学の教科の目標や学習内容、指導法などについて学習し、教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につける。</p>

3年次	前期	<p>中学校教諭免許取得に向けて、中学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①数学各分野の専門的知識を修得し、教育活動のための能力を発揮できるよう、効果的な学習プログラム作成と具体的な指導ができる能力を身につける。さらに、数学の実践的な活用についても修得する。</p> <p>②高齢者、障害者及び児童を対象とした活動を体験することによって、教員として個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図る。</p>
	後期	<p>前期に引き続き中学校教員免許取得に向けて、中学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①教育課程の意義や決まり、教育課程編成の実際などについて理解し、教科指導の基礎を身につける。</p> <p>②生徒指導が学習指導とともに学校教育の重要な機能であることを確認し、生徒理解と学級集団の育成の理論や諸方法について理解する。</p> <p>③学校教育における教育相談の重要性を認識し、カウンセリングに関する理論と技法などの基礎知識や個々の生徒の状況を把握し評価するための知識、アセスメント方法を学び修得する。</p> <p>⑤教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につけ、中学校教育における教材研究の具体的な方法を自分自身で行うための基礎的知識と技能を修得する。</p>
4年次	前期	<p>中学校教員免許取得を目指して3年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①中学校数学の専門科目、教職に関する科目、教科に関する科目など修得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、中学校での教育実習の指導を通して、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させることを目指す。</p> <p>②中学校での教育実習で授業等を担当し、これまでに修得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力や基本的技術を身につけることを目指す。同時に、自己評価を通して、自分自身の課題を明確にする。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、中学校教員免許取得を目指して4年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①これまでの学修によって身に付けた中学校教諭としての資質・能力の全体を見直し、使命感や責任感、社会性や対人関係、生徒に対する理解や関係づくり、中学校教育の指導能力について、足りない部分を補い、養成段階としての仕上げを目指す。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<健康情報学部健康情報学科>（認定課程：中一種免（数学））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	現代社会と青年の心理	基礎解析学1演習		生涯スポーツ実習A	基礎力学演習
			コンピュータリテラシー1		コンピュータリテラシー1	
	後期	発達心理学	基礎解析学2演習		日本国憲法	
			コンピュータリテラシー2		身体・スポーツ文化論	
					生涯スポーツ実習B	
2年次	前期	教育原理	幾何学1		Practical English 1	医用数学
		教育制度論				
		教育心理学				
		特別ニーズ教育の基礎と方法				
		道徳教育の理論と方法				
		教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法				
		数学科教育法1				
	後期	教職論	代数学1		Practical English 2	
		特別活動指導法	確率・統計			
		数学科教育法2	情報工学基礎演習			

3年次	前期	数学科教育法3	解析学	介護等体験指導		
			医療健康統計演習			
	後期	教育課程論		介護等体験指導		応用数学と臨床医工学
		情報通信技術活用論				
生徒・進路指導論						
教育相談						
		数学科教育法4				
4年次	前期	教育実習1				
		教育実習2				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				
	後期	教育実習1				
		教育実習2				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<健康情報学部健康情報学科> (認定課程:高一種免(数学))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指している、不断の努力を続けることができる人間性豊かな教員としての基盤を構築する。</p> <p>②数学科教員として必要となる数学及び情報の基礎的な科目を理解することで数学の分野を学ぶための基礎及び高等学校教育におけるコンピュータ活用について修得する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指す教員像の理解を進め、教員の役割や職務内容、必要な資質について理解する。4年間の教職学修における目標を設定し、目標の実現に向けて意欲的に学修を進めるようになる。</p> <p>②学科の数学及び情報の基礎的な科目を理解することで数学の分野を学ぶための基礎を修得する。</p> <p>③日本国憲法や情報機器の操作等の教員として必要な基礎的知識と技能を修得する。</p>
2年次	前期	<p>高等学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①教育の基本的な理念とこれまでの成り立ち、教育に関する制度、服務規程、関係法規等について理解する。</p> <p>②様々な状況にある生徒の身体的・心理的特性を理解し、学習の基礎理論と動機づけ、教育評価と測定の方法等の知見について理解を深め、数学の教科を通じた学校教育現場の具体的な課題への対応について関心を高める。</p> <p>③教育方法の基礎理論と技術について学ぶとともに、現代の教育実践及び情報機器の活用について理解する。</p> <p>④数学の教科における目標や学習内容、指導法などについて学修し、教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き高等学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①特別活動の意義について学習し、実際の教育現場での実践を基に、特別活動の果たす役割を理解する。</p> <p>②数学の各分野の基礎から専門的な知識まで修得し、教育活動のための能力を発揮できるようにする。さらに、高等学校教育におけるコンピュータ活用の応用について修得する。</p> <p>④数学の教科の目標や学習内容、指導法などについて学習し、教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
3年次	前期	<p>高等学校教諭免許取得に向けて、高等学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①数学各分野の専門的知識を修得し、教育活動のための能力を発揮できるようにする。さらに、数学の実践的な活用についても修得する。</p> <p>②高齢者、障害者及び児童を対象とした活動を体験することによって、教員として個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図る。</p>
	後期	<p>前期に引き続き高等学校教員免許取得に向けて、高等学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①教育課程の意義や決まり、教育課程編成の実際などについて理解し、教科指導の基礎を身につける。</p> <p>②生徒指導が学習指導とともに学校教育の重要な機能であることを確認し、生徒理解と学級集団の育成の理論や諸方法について理解する。</p> <p>③学校教育における教育相談の重要性を認識し、カウンセリングに関する理論と技法などの基礎知識や個々の生徒の状況を把握し評価するための知識、アセスメント方法を学び修得する。</p>

4年次	前期	<p>高等学校教員免許取得を目指して3年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①高等学校数学の専門科目、教職に関する科目、教科に関する科目など修得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、高等学校での教育実習の指導を通して、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させることを目指す。</p> <p>②高等学校での教育実習で授業等を担当し、これまでに修得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力や基本的技術を身につけることを目指す。同時に、自己評価を通して、自分自身の課題を明確にする。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、高等学校教員免許取得を目指して4年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①これまでの学修によって身に付けた高等学校教諭としての資質・能力の全体を見直し、使命感や責任感、社会性や対人関係、生徒に対する理解や関係づくり、高等学校教育の指導能力について、足りない部分を補い、養成段階としての仕上げを目指す。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<健康情報学部健康情報学科>（認定課程：高一種免（数学））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	現代社会と青年の心理	基礎解析学1演習		生涯スポーツ実習A	基礎力学演習
			コンピュータリテラシー1		コンピュータリテラシー1	
	後期	発達心理学	基礎解析学2演習		日本国憲法	
			コンピュータリテラシー2		身体・スポーツ文化論	
					生涯スポーツ実習B	
				コンピュータリテラシー2		
2年次	前期	教育原理	幾何学1	道徳教育の理論と方法	Practical English 1	医用数学
		教育制度論				
		教育心理学				
		特別ニーズ教育の基礎と方法				
		教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法				
		数学科教育法1				
	後期	教職論	代数学1		Practical English 2	
		特別活動指導法	確率・統計			
		数学科教育法2	データ処理プログラミング			
			情報工学基礎演習			
3年次	前期		解析学	介護等体験指導		
			情報システム工学			
			医療健康統計演習			
	後期	教育課程論		介護等体験指導		応用数学と臨床医工学
		情報通信技術活用論				
		生徒・進路指導論				
		教育相談				

4年次	前期	教育実習1				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				
	後期	教育実習1				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<健康情報学部健康情報学科> (認定課程: 中一種免(保健体育))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指している、不断の努力を続けることができる人間性豊かな教員としての基盤を構築する。</p> <p>②保健体育科教員として必要となるスポーツ実技や情報機器の操作などの基礎的知識・技能を修得する。</p> <p>③スポーツ科学、健康科学の基礎を学び、スポーツの効用や価値を理解するとともに、各種目の実践によって種目の特性を知る。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指す教員像の理解を進め、教員の役割や職務内容、必要な資質について理解する。4年間の教職学修における目標を設定し、目標の実現に向けて意欲的に学修を進めるようになる。</p> <p>②身体活動やスポーツの文化的価値、それらの成り立ちを理解する。</p> <p>③各種目の実践によって種目の特性の理解を深め、保健体育科教員として求められる示範能力の基礎を身に付ける。</p> <p>④日本国憲法や情報機器の操作等の教員として必要な基礎的知識と技能を修得する。</p>
2年次	前期	<p>中学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①教育の基本的な理念とこれまでの成り立ち、教育に関する制度、服務規程、関係法規等について理解する。</p> <p>②様々な状況にある生徒の身体的・心理的特性を理解し、学習の基礎理論と動機づけ、教育評価と測定の方法等の知見について理解を深め、体育・スポーツを通じた学校教育現場の具体的な課題への対応について関心を高める。</p> <p>③道徳教育の意義と役割について、歴史的背景と社会的動向を考慮し、道徳性を育むための理論と方法を理解する。</p> <p>④教育方法の基礎理論と技術について学ぶとともに、現代の教育実践および情報機器の活用について理解する。</p> <p>⑤スポーツや学校体育の変遷について学修し、体育の存在理由や意義、教育としての可能性を理解し、教科体育を担当する専門家として資質向上に取り組む。</p> <p>⑥運動によるからだの生理学的諸機能やこころの変化について学修し、心身の健康のための運動のあり方を追究する。</p> <p>⑦「保健体育・体育分野」の目標や学習内容、指導法などについて学修し、教科の特性を生かした指導方法論および技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き中学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①特別活動の意義について学習し、実際の教育現場での実践を基に、特別活動の果たす役割を理解する。</p> <p>②近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴を学習し、スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方を理解し、スポーツ文化の望ましい発展について貢献する力を身につける。</p> <p>③健康の概念を把握し、健康障害を与える諸要因との関係や関係法規を理解するとともに、心肺蘇生やAED、応急手当の方法を実践して学修し、いざという時に対応できる力を身に付ける。</p> <p>④「保健体育・体育および保健分野」の目標や学習内容、指導法などについて学習し、教科の特性を生かした指導方法論および技術指導を実践できる能力を身につける。</p>

3年次	前期	<p>中学校教諭免許取得に向けて、中学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①中学校「保健体育・体育分野」で扱われる各スポーツ種目の示範能力を高め、効果的なプログラム作成と具体的な指導ができる能力を身につける。</p> <p>②学校における体育経営管理の基本的な考え方を理解し、チームビルディング、トレーニングプログラム、用具や施設に配慮して、生徒にとって効果的かつ安全が担保された体育・スポーツ活動を提供できる力を身につける。</p> <p>③高齢者、障害者および児童を対象とした活動を体験することによって、教員として個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図る。</p>
	後期	<p>前期に引き続き中学校教員免許取得に向けて、中学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①教育課程の意義や決まり、教育課程編成の実際などについて理解し、教科指導の基礎を身につける。</p> <p>②生徒指導が学習指導とともに学校教育の重要な機能であることを確認し、生徒理解と学級集団の育成の理論や諸方法について理解する。</p> <p>③学校教育における教育相談の重要性を認識し、カウンセリングに関する理論と技法などの基礎知識や個々の生徒の状況を把握し評価するための知識、アセスメント方法を学び修得する。</p> <p>④学校教育における学校保健の意義、仕組みなどを学習し、保健教育と保健管理両面から生徒や教職員の健康を保持増進できる実践力を高める。</p> <p>⑤中学校「保健体育・保健分野」の目標や学習内容、指導法などについて学修し、各スポーツ種目の示範能力を高め、教科の特性を生かした指導方法論および技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
4年次	前期	<p>中学校教員免許取得を目指して3年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①中学校保健体育の専門科目、教職に関する科目、教科に関する科目など修得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、中学校での教育実習の指導を通して、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させることを目指す。</p> <p>②中学校での教育実習で授業等を担当し、これまでに修得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力や基本的技術を身につけることを目指す。同時に、自己評価を通して、自分自身の課題を明確にする。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、中学校教員免許取得を目指して4年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①これまでの学修によって身に付けた中学校教諭としての資質・能力の全体を見直し、使命感や責任感、社会性や対人関係、生徒に対する理解や関係づくり、中学校教育の指導能力について、足りない部分を補い、養成段階としての仕上げを目指す。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<健康情報学部健康情報学科>（認定課程：中一種免（保健体育））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	現代社会と青年の心理	スポーツ方法実習（器械運動）		スポーツ方法実習（器械運動）	
			スポーツ方法実習（ベースボール型球技）		コンピュータリテラシー1	
			解剖生理学1			
	後期	発達心理学	スポーツ方法実習（陸上競技）		日本国憲法	スポーツ教育学
			スポーツ方法実習（ネット型球技1）		身体・スポーツ文化論	
			身体・スポーツ文化論		スポーツ方法実習（陸上競技）	
				コンピュータリテラシー2		
2年次	前期	教育原理	スポーツ方法実習（武道）		Practical English 1	
		教育制度論	体育・スポーツ原理			
		教育心理学	体育・スポーツ心理学			
		特別ニーズ教育の基礎と方法	運動生理学			
		道德教育の理論と方法				
		教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法				
		保健体育科教育法1				
	後期	教職論	スポーツ方法実習（水泳・水中運動）		Practical English 2	スポーツ教育学基礎演習1
		特別活動指導法	体づくり運動と運動遊び			
		保健体育科教育法2	スポーツ方法実習（ダンス）			
			体育・スポーツ社会学			
			公衆衛生学			
			スポーツ医学と救急救命演習			

3年次	前期	保健体育科教育法3	スポーツ方法実習(バスケットボール)	介護等体験指導		スポーツ教育学基礎演習2
			スポーツマネジメント論			スポーツ教育学応用演習
	後期	教育課程論	スポーツ方法実習(ゴール型球技)	介護等体験指導		スポーツ教育学応用演習
		情報通信技術活用論	スポーツ指導実習			
		生徒・進路指導論	学校保健			
		教育相談				
		保健体育科教育法4				
	4年次	前期	教育実習1			
教育実習2						
事前・事後指導						
教育実践演習(中・高)						
後期		教育実習1				
		教育実習2				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜健康情報学部健康情報学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指している、不断の努力を続けることができる人間性豊かな教員としての基盤を構築する。</p> <p>②保健体育科教員として必要となるスポーツ実技や情報機器の操作などの基礎的知識・技能を修得する。</p> <p>②スポーツ科学、健康科学の基礎を学び、スポーツの効用や価値を理解するとともに、各種目の実践によって種目の特性を知る。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指す教員像の理解を進め、教員の役割や職務内容、必要な資質について理解する。4年間の教職学修における目標を設定し、目標の実現に向けて意欲的に学修を進めるようになる。</p> <p>②身体活動やスポーツの文化的価値、それらの成り立ちを理解する。</p> <p>③各種目の実践によって種目の特性の理解を深め、保健体育科教員として求められる示範能力の基礎を身に付ける。</p> <p>④日本国憲法や情報機器の操作等の教員として必要な基礎的知識と技能を修得する。</p>
2年次	前期	<p>高等学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①教育の基本的な理念とこれまでの成り立ち、教育に関する制度、服務規程、関係法規等について理解する。</p> <p>②様々な状況にある生徒の身体的・心理的特性を理解し、学習の基礎理論と動機づけ、教育評価と測定の方法等の知見について理解を深め、体育・スポーツを通じた学校教育現場の具体的な課題への対応について関心を高める。</p> <p>③教育方法の基礎理論と技術について学ぶとともに、現代の教育実践および情報機器の活用について理解する。</p> <p>④スポーツや学校体育の変遷について学修し、体育の存在理由や意義、教育としての可能性を理解し、教科体育を担当する専門家として資質向上に取り組む。</p> <p>⑤運動によるからだの生理学的諸機能やこころの変化について学修し、心身の健康のための運動のあり方を追究する。</p> <p>⑥「保健体育・体育分野」の目標や学習内容、指導法などについて学修し、教科の特性を生かした指導方法論および技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き高等学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①特別活動の意義について学習し、実際の教育現場での実践を基に、特別活動の果たす役割を理解する。</p> <p>②近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴を学習し、スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方を理解し、スポーツ文化の望ましい発展について貢献する力を身につける。</p> <p>③健康の概念を把握し、健康障害を与える諸要因との関係や関係法規を理解するとともに、心肺蘇生やAED、応急手当の方法を実践して学修し、いざという時に対応できる力を身に付ける。</p> <p>④「保健体育・体育および保健分野」の目標や学習内容、指導法などについて学習し、教科の特性を生かした指導方法論および技術指導を実践できる能力を身につける。</p>

3年次	前期	<p>高等学校教諭免許取得に向けて、高等学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①高等学校「保健体育・体育分野」で扱われる各スポーツ種目の示範能力を高め、効果的なプログラム作成と具体的な指導ができる能力を身につける。</p> <p>②学校における体育経営管理の基本的な考え方を理解し、チームビルディング、トレーニングプログラム、用具や施設に配慮して、生徒にとって効果的かつ安全が担保された体育・スポーツ活動を提供できる力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き高等学校教員免許取得に向けて、高等学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①教育課程の意義や決まり、教育課程編成の実際などについて理解し、教科指導の基礎を身につける。</p> <p>②生徒指導が学習指導とともに学校教育の重要な機能であることを確認し、生徒理解と学級集団の育成の理論や諸方法について理解する。</p> <p>③学校教育における教育相談の重要性を認識し、カウンセリングに関する理論と技法などの基礎知識や個々の生徒の状況を把握し評価するための知識、アセスメント方法を学び修得する。</p> <p>④学校教育における学校保健の意義、仕組みなどを学習し、保健教育と保健管理両面から生徒や教職員の健康を保持増進できる実践力を高める。</p>
4年次	前期	<p>高等学校教員免許取得を目指して3年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①高等学校保健体育の専門科目、教職に関する科目、教科に関する科目など修得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、高等学校での教育実習の指導を通して、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させることを目指す。</p> <p>②高等学校での教育実習で授業等を担当し、これまでに修得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力や基本的技術を身につけることを目指す。同時に、自己評価を通して、自分自身の課題を明確にする。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、高等学校教員免許取得を目指して4年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①これまでの学修によって身に付けた高等学校教諭としての資質・能力の全体を見直し、使命感や責任感、社会性や対人関係、生徒に対する理解や関係づくり、高等学校教育の指導能力について、足りない部分を補い、養成段階としての仕上げを目指す。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<健康情報学部健康情報学科>（認定課程：高一種免（保健体育））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	現代社会と青年の心理	スポーツ方法実習（器械運動）		スポーツ方法実習（器械運動）	
			スポーツ方法実習（ベースボール型球技）		コンピュータリテラシー1	
			解剖生理学1			
	後期	発達心理学	スポーツ方法実習（陸上競技）		日本国憲法	スポーツ教育学
			スポーツ方法実習（ネット型球技1）		身体・スポーツ文化論	
			身体・スポーツ文化論		スポーツ方法実習（陸上競技）	
				コンピュータリテラシー2		
2年次	前期	教育原理	スポーツ方法実習（武道）	道德教育の理論と方法	Practical English 1	
		教育制度論	体育・スポーツ原理			
		教育心理学	体育・スポーツ心理学			
		特別ニーズ教育の基礎と方法	運動生理学			
		教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法				
		保健体育科教育法1				
	後期	教職論	スポーツ方法実習（水泳・水中運動）		Practical English 2	スポーツ教育学基礎演習1
		特別活動指導法	体づくり運動と運動遊び			
		保健体育科教育法2	スポーツ方法実習（ダンス）			
			体育・スポーツ社会学			
			公衆衛生学			
			スポーツ医学と救急救命演習			

3年次	前期		スポーツ方法実習(バスケットボール)	介護等体験指導		スポーツ教育学基礎演習2
			スポーツマネジメント論			スポーツ教育学応用演習
	後期	教育課程論	スポーツ方法実習(ゴール型球技)	介護等体験指導		スポーツ教育学応用演習
		情報通信技術活用論	スポーツ指導実習			
		生徒・進路指導論	学校保健			
	教育相談					
4年次	前期	教育実習1				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				
	後期	教育実習1				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜健康情報学部健康情報学科＞（認定課程：高一種免（工業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指している、不断の努力を続けることができる人間性豊かな教員としての基盤を構築する。</p> <p>②工業科教員として必要となる工学に関する基礎的な科目を理解することで工学の分野を学ぶための基礎及び高等学校教育におけるコンピュータ活用について修得する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、教員に必要な資質や能力の基礎となる以下の育成を到達目標とする。</p> <p>①本学科が目指す教員像の理解を進め、教員の役割や職務内容、必要な資質について理解する。4年間の教職学修における目標を設定し、目標の実現に向けて意欲的に学修を進めるようになる。</p> <p>②学科の工業に関する基礎的な科目を理解することで工業の分野を学ぶための基礎を修得する。</p> <p>③日本国憲法や情報機器の操作等の教員として必要な基礎的知識と技能を修得する。</p>
2年次	前期	<p>高等学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①教育の基本的な理念とこれまでの成り立ち、教育に関する制度、服務規程、関係法規等について理解する。</p> <p>②様々な状況にある生徒の身体的・心理的特性を理解し、学習の基礎理論と動機づけ、教育評価と測定の方法等の知見について理解を深め、工業の教科を通じた学校教育現場の具体的な課題への対応について関心を高める。</p> <p>③教育方法の基礎理論と技術について学ぶとともに、現代の教育実践及び情報機器の活用について理解する。</p> <p>④工業の教科における目標や学習内容、指導法などについて学修し、教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き高等学校教員免許の取得に向けて必要な科目を履修し、主に以下の専門知識と技能の修得を目指す。</p> <p>①特別活動の意義について学習し、実際の教育現場での実践を基に、特別活動の果たす役割を理解する。</p> <p>②工学の応用分野として医療分野から工学の応用、専門的な知識まで修得し、工業分野の教育活動のための能力を発揮できるようにする。</p> <p>③工業の教科の目標や学習内容、指導法などについて学習し、教科の特性を生かした指導方法論及び技術指導を実践できる能力を身につける。</p>

3年次	前期	<p>高等学校教諭免許取得に向けて、高等学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①「ものづくり」の体験を通じて、工学の知識や技術だけでなく、工業の発展につながる創造的な能力と工業の実践的な活用についても修得する。</p> <p>②高齢者、障害者及び児童を対象とした活動を体験することによって、教員として個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図る。</p>
	後期	<p>前期に引き続き高等学校教員免許取得に向けて、高等学校教諭としての専門性を高めるために、以下の知識・技能の修得を目指す。</p> <p>①教育課程の意義や決まり、教育課程編成の実際などについて理解し、教科指導の基礎を身につける。</p> <p>②生徒指導が学習指導とともに学校教育の重要な機能であることを確認し、生徒理解と学級集団の育成の理論や諸方法について理解する。</p> <p>③学校教育における教育相談の重要性を認識し、カウンセリングに関する理論と技法などの基礎知識や個々の生徒の状況を把握し評価するための知識、アセスメント方法を学び修得する。</p> <p>④前期に引き続き「ものづくり」の体験を通じて、工学の知識や技術だけでなく、工業の発展につながる創造的な能力と工業の実践的な活用についても修得する。</p>
4年次	前期	<p>高等学校教員免許取得を目指して3年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①高等学校工業の専門科目、教職に関する科目、教科に関する科目など修得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、高等学校での教育実習の指導を通して、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させることを目指す。</p> <p>②高等学校での教育実習で授業等を担当し、これまでに修得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力や基本的技術を身につけることを目指す。同時に、自己評価を通して、自分自身の課題を明確にする。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、高等学校教員免許取得を目指して4年間にわたり学修した成果と培ってきた課題意識に立って、これまでの成果を確認し、更に発展させる。</p> <p>①これまでの学修によって身に付けた高等学校教諭としての資質・能力の全体を見直し、使命感や責任感、社会性や対人関係、生徒に対する理解や関係づくり、高等学校教育の指導能力について、足りない部分を補い、養成段階としての仕上げを目指す。</p>

様式第7号ウ（教諭）

＜健康情報学部健康情報学科＞（認定課程：高一種免（工業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	現代社会と青年の心理			生涯スポーツ実習A	
					コンピュータリテラシー2	
	後期	発達心理学	基礎電気工学		日本国憲法	
			医用材料工学		身体・スポーツ文化論	
		医用機器学概論		生涯スポーツ実習B		
				コンピュータリテラシー2		
2年次	前期	教育原理	電気電子工学実験	道徳教育の理論と方法	Practical English 1	
		教育制度論	プログラミング応用実習			
		教育心理学	応用電気工学			
		特別ニーズ教育の基礎と方法	基礎電子工学			
		教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法	計測工学			
		工業科教育法1				
	後期	教職論	応用電子工学		Practical English 2	医用機械工学演習
		特別活動指導法	医用電気電子工学演習			
		工業科教育法2	医用機械工学			
			職業指導			

3年次	前期		メカトロニクス	介護等体験指導		認知科学とデザイン
			基礎製図演習			
			医用計測学			
			ヒト型ロボット製作実習			
	後期	教育課程論	ヒト型ロボット制御実習	介護等体験指導		医用情報工学演習
		情報通信技術活用論				臨床支援技術学
		生徒・進路指導論				
教育相談						
4年次	前期	教育実習1				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				
	後期	教育実習1				
		事前・事後指導				
		教育実践演習(中・高)				